



いちょう

目指す学校像 生徒一人一人の力が伸びる学校

令和8年3月2日

新座市立第三中学校

〒352-0015 新座市池田 1-1-1

TEL(048)479-4052

弥生 本年度の教育活動にかかる評価の報告

校長 近藤 章宏

○着任のご挨拶

前任の石田和男校長の病氣療養にかかる長期の休職のため、第三中学校第18代校長を拝命した近藤章宏と申します。本年度も残すところ1か月であり、三年生は卒業まで2週間です。生徒たちがしっかりと卒業、進級に向き合えるよう、教職員と共に取り組んでまいります。早速ですが本年度の本校の取り組みにかかる評価結果について2点報告致します。

○保護者アンケートの結果から

昨年12月に本年度2回目の保護者アンケートを実施し、287名(回答率37%)の保護者の方からご回答をいただきました。結果としてはA+B評価については、9項目中7項目で90%を超える評価をいただきました。

令和7年度 第2回保護者アンケート結果

第2回(12月実施)回答数 287名(1学年:101名、2学年:79名、3学年:107名)
A、Bは、A+Bの数値、カッコ内は、「分からない」を除いて算出した数値
Cは、C+Dの数値、カッコ内は、「分からない」を除いて算出した数値

項目	評価				分からない
	A	B	C	D	
1. 学校は、教職員がチームワークを発揮し、学校教育目標に向けて一丸となって取り組んでいる。	58名 20.2%	183名 63.8%	7名 2.4%	3名 1.0%	36名 12.6%
2. 学校は、ICTの積極的な活用やペーパーレス化など、校務の効率化に取り組んでいる。	92名 32.1%	164名 57.1%	5名 1.7%	0名 0%	26名 9.1%
3. 学校は、学力の向上を目指して、生徒の実態に基づいた授業改善に努めている。	30名 10.5%	164名 57.1%	30名 10.5%	5名 1.7%	58名 20.2%
4. 学校は、グループによる「聞き合い」「学び合い」を効果的に行い、一人一人の学び意欲や理解度を高めている。	47名 16.4%	159名 55.4%	19名 6.6%	3名 1.0%	59名 20.6%
5. 学校は、生徒一人一人が安心して学べる環境づくりと良好な人間関係の構築を行っている。	52名 18.1%	184名 64.1%	15名 5.3%	3名 1.0%	33名 11.5%
6. 学校は、生徒一人一人の個性を認め、伸ばす教育を行っている。	43名 15.0%	170名 59.2%	23名 8.0%	3名 1.0%	48名 16.8%
7. 学校は、緊急事態発生時の対応に向けた体制づくり及び生徒に対する安全教育を行っている。	80名 28.0%	182名 63.4%	4名 1.4%	2名 0.7%	39名 13.6%
8. 学校は、保護者が教育活動を参観できる機会を適宜設けている。	94名 32.8%	172名 59.9%	10名 3.5%	2名 0.7%	9名 3.1%
9. 学校は、PTA活動や学校参観団活動を推進するため、PTAと連携・協力を取り組んでいる。	92名 32.1%	150名 52.3%	1名 0.3%	0名 0%	44名 15.3%

項目8や9の保護者と学校の連携に関する項目が比較的高い数値になっていることは本校の特徴の一つです。引き続き学校の教育活動に関わりやすく、また参観できる機会を確保してまいりたいと思います。逆にやや評価が低い項目に、項目3の学力向上、項目6の一人一人の個性の認証の2点があります。個別の保護者のご意見を伺うと、教員間の対応の差異が少なからず指摘されており、教職員も一人

一人に個性や持ち味がありますので、全ての対応を揃えることは難しいところもありますが、学年内での対応や教科別の指導方法、課題の出し方など、できる限り共通化を図るなど、信頼を高めることができるよう取り組んでまいります。

○学校関係者評価(外部評価)の結果から

学校は年度末に教職員の自己評価に基づいた、学校関係者評価(外部評価)を実施することが義務付けられており、毎年度1月に実施しております。評価項目は市教育委員会から大枠で5点定められており、本校では下記の表の内容としております。

令和7年度学校運営協議会による評価(外部評価)

項目	質問	自己評価	自己評価についての説明	外部評価	学校運営協議会による評価についての説明
組織運営	学校は、働き方改革を進めるため、校務分掌や教育課程を見直し、教職員の意識を高めるよう組織的に取り組んでいる。	A	働き方の見直しをさらに進めていかなければならない。勤務時間外の在任時間、部活動の時間については今一度考えていく必要がある。また、会議等の精選についても引き続き検討していく必要がある。	A	教職員の努力は見取れるし、働き方への意識は良い方向に向いているが、学校全体としてまだまだ、検討していく余地がある。生徒への教育、保護者への対応等への質を落とさずに時間外活動の地域展開には課題もありそうだが、子どもたちのためになるように地域として見守っていきたい。
学力向上	学校は、各教科の指導において「見方・考え方」を軸としたカリキュラム・マネジメントを生かした授業を展開し、資質・能力の育成に努めている。	A	研究委嘱3年目が経ち「学びの共同体」についての研究発表会を行うことができた。共同体を生かした主体的で深い学びが定着してきていることを教員、生徒ともに実感している。課題としては、生徒自身が共同体を生かした学び方を考えるようにすること、学びの共同体の良さを生かすことのできる各教科の工夫である。	A	研究発表会を兼ね、学びの共同体という授業形態、取組はよい。すべての教科、すべての時間での取組は難しいとも思われる。柔軟な要素あり、メリハリのある学習形態であることよ。共同体での学習では、メンバーを順番にしたり、個が学ぶ時間があったりしてもよい。また、個の力がつく方法をさらに検討してもよいのではないだろうか。
育成	学校は、児童生徒一人一人が個性を認め、安心して学校生活を送ることができる環境を整備している。	A	教員間で生徒に関する情報共有がされ、組織的に指導を行う体制が整っている。また、迅速かつ粘り強い生徒指導、生徒に寄り添った教育相談体制が整っている。不登校予防と登校支援「ルームPT」の活用が今後の課題である。	A	教職員は生徒一人一人のことを理解している。不登校の在り方が昔と変わってきている。家にもネットなどで外と繋がっているが、人間との繋がりをもてるようにしていくことが重要となっている。不登校生徒をひとりにするのではなく、個々の理解、友人関係、家庭環境に応じた学びの環境を整えていくことが求められる。行事を通して、学べる部分が多くなるので、働き方改革との両面で考えていく。
健康・体力向上	学校は、事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	A	不審者対応の避難訓練を計画的に行った。生徒の安全意識、教職員の意識が高まった。様々な学校事故や災害の報道に合わせたタイムリーな安全教育などを充実させ、さらに生徒の安全意識を高めていく。また、教職員による安全点検の方法についても継続して、安全な学校環境を維持していく。	A	教職員・保護者とも安心しているという点では大層だ。良いことである。学校全体として対応に力を入れていくことで生徒の意識も変わっていく。来年度も引き続き多様な訓練から重点的な避難訓練を行うなど継続した取組が必要である。その際、災害時に子どもたちが安全に登下校できるルートを考える機会をも受けてもよいのではないかと。
と保護者・地域の連携	学校は、保護者や地域の力が教育活動を参観できる機会を設けている。	A	教職員の自己評価は3.29から3.19に数値が下がり課題となった。教職員の中でも開かれた学校という部分で改善が必要と感じているといえる。改善策として、授業の公開の回数を見直しなど、より開かれた学校という明確な目標を持って来年度取り組んでいく。	A	体育祭、合唱祭などの学校行事を土曜日公開しない理由を保護者に説明すれば理解が深まるのではないか。また、保護者、地域の方が足しげろ来校し、指導の様子、子どもたちの学ぶ姿を実際に目で見ることが理想的であるので、学校に来る機会、授業参観の機会を増やすのは検討の余地がある。

評価結果は全ての項目で自己評価、外部評価共に、S/A/B/Cの4段階評価でA評価となりました。保護者アンケートでも指摘があった部分ではありますが、学力向上について自己評価では、「学びの共同体」の取組の成果が、外部評価では、その今後の取組の方向性について工夫の余地が指摘されています。本校の取組についての評価を踏まえ、新年度に向けて教職員と共に改善について検討を進めてまいります。

